

## 授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I	指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科1年
授業方法	講義: ○	演習:	実習: 実技:
年間時間数	28 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。</li> <li>・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。</li> <li>・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	SUCCESS		
授業外学習の方法	教科書復習		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。</li> <li>・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。</li> <li>・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	2	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	3	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2 エントリーシート	
	4	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2 封筒の書き方、添え状	
	5	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2 その他の書類、履歴書	
	6	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2 履歴書の完成	
	7	企業訪問	5-1.5-2	
	8	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	9	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	10	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミ I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科1年
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</li> <li>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	14	期末試験	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミ I		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</li> <li>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。	
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	8	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。	
	13	特別授業1	年度末最後の選択授業を2回で実施する。	
	14	特別授業2	年度末最後の選択授業を2回で実施する。最終レポート提出。	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習 I	指導担当者名	山家ちあき
実務経験	有	ラジオMC、ボイストレーナーに従事	
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による自身の音域の理解</li> <li>・発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ</li> <li>・声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	電子ピアノ、楽譜 等		
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	
	2	呼吸・発声①、	ウォーミングアップ、柔軟体操、ストレッチと筋肉強化について
	3	呼吸・発声②	姿勢、呼吸、発声、共鳴とフェイストレーニング
	4	のどと声帯・呼吸器官について	咽頭・喉頭、声帯の仕組み、胸式呼吸・腹式呼吸について実習を通して学ぶ
	5	歌唱の呼吸①、歌唱指導①	深い息に耐えられる体づくり、課題曲
	6	歌唱指導②	ハミング、課題曲
	7	歌唱指導③	リップロール、課題曲
	8	歌唱指導④	のどを柔軟にする
	9	歌唱指導⑤	課題曲を完成させる
	10	歌唱指導⑥	課題曲を完成させる、個別指導
	11	歌唱指導⑦	課題曲の発表会、個別指導
	12	これまでの復習	復習
	13	期末試験	課題曲発表
	14	振り返り	前期の振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習 I		指導担当者名	山家ちあき
実務経験	有	ラジオMC、ボイストレーナーに従事		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による自身の音域の理解</li> <li>・発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ</li> <li>・声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	電子ピアノ、楽譜 等			
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	前期の復習、オリエンテーション	前期の復習、後期の授業内容を理解する。	
	2	声域①	自分の声域を知る	
	3	声域②	キーの設定、声区について学ぶ	
	4	歌唱の呼吸②、歌唱指導①	共鳴を学ぶ	
	5	歌唱指導②	ロングトーンの基礎、課題曲	
	6	歌唱指導③	クレッシェンドとデクレッシェンド、課題曲	
	7	歌唱指導④	ピアノとフォルテ、課題曲	
	8	歌唱指導⑤	裏声とファルセット、課題曲	
	9	歌唱指導⑥	音階、課題曲	
	10	歌唱指導⑦	全音、半音、課題曲	
	11	これまでの復習	復習	
	12	期末試験	課題曲発表	
	13	振り返り	期末試験振り返り	
	14	振り返り	1年間の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	セルフプロデュース実習 I		指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	瞬発力・発想力・語彙力を向上し、オーディションにおける自己PR、キャラづくりを行う。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	筆記用具、パソコン、メイク道具 等			
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業進行についての説明	
	2	インプロビゼーション	人前で演じる練習(インプロビゼーション)	
	3	感情開放	人前で演じる練習(感情開放)	
	4	宣材写真基礎知識	宣材写真の基礎知識を学ぶ	
	5	宣材写真ポージング	宣材写真のポージング実習	
	6	宣材写真撮影	宣材写真の撮影	
	7	ボイスサンプル制作①	ボイスサンプルの台本制作を行う	
	8	ボイスサンプル制作②	ボイスサンプルの台本制作、添削を行う	
	9	ボイスサンプル制作③	ボイスサンプルの台本練習(セリフ)	
	10	ボイスサンプル制作④	ボイスサンプルの台本練習(セリフ)	
	11	ボイスサンプル制作⑤	ボイスサンプルの台本練習(ナレーション)	
	12	ボイスサンプル制作⑥	ボイスサンプルの台本練習(ナレーション)	
	13	前期期末試験	ボイスサンプルの実演試験	
	14	前期振り返り	オーディション対策、他の人の自己PRを見る	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	セルフプロデュース実習 I		指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	瞬発力・発想力・語彙力を向上し、オーディションにおける自己PR、キャラづくりを行う。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	筆記用具、パソコン、メイク道具 等			
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	オリエンテーション	前期の学習内容の振り返り	
	2	オーディション基礎知識	オーディションの種類、オーディションの内容について学ぶ	
	3	模擬オーディション実習①	対面を想定した模擬オーディションを行う	
	4	模擬オーディション実習②	オンラインを想定した模擬オーディションを行う	
	5	オーディション対策①	自己PRの見直し	
	6	オーディション対策②	目標とする養成所・事務所についての分析	
	7	オーディション対策③	自己表現	
	8	事務所・養成所基礎知識	事務所・養成所のあり方、選び方	
	9	インプロビゼーション①	即興劇	
	10	インプロビゼーション②	動きを制限した演技表現	
	11	プロとしての心構え①	声優としての心構え、マナー、社会性を身に付ける	
	12	プロとしての心構え②	声優としての心構え、マナー、社会性を身に付ける	
	13	前期期末試験	模擬オーディション(自己PR、セリフ、ナレーション)	
	14	前期振り返り	後期の学習内容の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				



## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習 I	指導担当者名	藤原悦子
実務経験	有	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事	
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス表現の基礎学ぶ</li> <li>・体力の向上を図る</li> <li>・肉体の柔軟性の向上を図る</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	なし		
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振り振り等		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明
	2	柔軟、筋トレ、バーレッスン①	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	3	柔軟、筋トレ、バーレッスン②	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	4	柔軟、筋トレ、バーレッスン③	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	5	柔軟、筋トレ、バーレッスン④	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	6	柔軟、筋トレ、バーレッスン⑤	ヒップホップについて知る
	7	様々なダンスジャンル①	ビバップ、ブレイク、ロック、ポップについて知る
	8	様々なダンスジャンル②	ダブステップ、フレキシング、レゲエについて知る
	9	様々なダンスジャンル③	バレエ、ジャズ、タップダンスについて知る
	10	様々なダンスジャンル④	フラメンコ、フラダンス、社交ダンスについて知る
	11	様々なダンスジャンル⑤	タンゴ、ベリーダンスについて知る
	12	様々なダンスジャンル⑥	コンテンポラリーダンスについて知る
	13	前期期末試験	ダンスの基礎実技試験
	14	前期振り振り	前期の学習内容の振り振り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習 I		指導担当者名	藤原悦子
実務経験	有	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス表現の基礎学ぶ</li> <li>・体力の向上を図る</li> <li>・肉体の柔軟性の向上を図る</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	なし			
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振り付け振り直し 等			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	前期振り直し	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	2	振り付け①	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	3	振り付け②	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	4	振り付け③	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	5	振り付け④	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	6	振り付け⑤	振り付けの中間確認を行う・フィードバック	
	7	中間発表	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	8	振り付け⑥	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	9	振り付け⑦	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	10	振り付け⑧	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	11	振り付け⑨	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	12	振り付け⑩	ダンス実習 実技小テスト	
	13	後期期末試験	ダンス発表	
	14	後期振り直し	後期学習内容の振り直し	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ナレーション演習		指導担当者名	宗方 和子
実務経験	有	司会業、ナレーターとして従事		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	文意を読み取り、スポンサー企業や制作者の意図するナレーション技術の習得			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	はじめてのナレーショントレーニング、本番ナレーション原稿			
授業外学習の方法	外部スタジオでのナレーション収録への参加、授業内で出した課題の実技練習			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介、授業の目的・流れの説明、ナレーションとは	
	2	コマーシャルナレーション①	コマーシャルナレーション基礎知識	
	3	コマーシャルナレーション②	声のトーンでナレーションのイメージに変化をつける	
	4	コマーシャルナレーション③	様々なコマーシャルナレーション原稿を読む	
	5	声の響きについて	自分の声の響きや特徴を理解する	
	6	様々なナレーション①	映画番組の予告ナレーション演習	
	7	様々なナレーション②	ドキュメンタリーナレーション	
	8	様々なナレーション③	コメディナレーション	
	9	様々なナレーション④	旅行番組、お店の紹介ナレーション	
	10	様々なナレーション⑤	動物番組ナレーション	
	11	様々なナレーション⑥	企業紹介ナレーション	
	12	様々なナレーション⑦	店内アナウンス	
	13	前期期末試験	ナレーションの実技試験	
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ナレーション演習		指導担当者名	宗方 和子
実務経験	有	司会業、ナレーターとして従事		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	文意を読み取り、スポンサー企業や制作者の意図するナレーション技術の習得			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	はじめてのナレーショントレーニング、本番ナレーション原稿			
授業外学習の方法	外部スタジオでのナレーション収録への参加、授業内で出した課題の実技練習			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	様々なナレーション⑧	劇場内などの案内ナレーション	
	2	様々なナレーション⑨	博物館、イベント広報アナウンス	
	3	様々なナレーション⑩	音声ガイド、結婚式映像ナレーション	
	4	声、呼吸のトレーニング	呼吸と発声の確認	
	5	アクセント、イントネーションの確認	アクセント辞典の使い方、イントネーションについて	
	6	プロミネンス	プロミネンス(強調)のトレーニング	
	7	アーティキュレーション	アーティキュレーション(滑舌)のトレーニング	
	8	フレーズ	フレーズ(句節法)のトレーニング	
	9	ポーズ	ポーズ(間)のトレーニング	
	10	リズム	リズムのトレーニング	
	11	長物ナレーション	長物原稿のナレーショントレーニング	
	12	紀行物ナレーション	紀行物原稿のナレーショントレーニング	
	13	後期期末試験	ナレーション実技試験	
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習 I	指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者	
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げ の技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類		
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク～スピーカー音が出るまで
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF オーダシティ① 録音
	5	波形編集ソフト②	オーダシティ② 波形編集・エフェクト1
	6	波形編集ソフト②	オーダシティ② 波形編集・エフェクト1
	7	波形編集ソフト③	オーダシティ③ 波形編集・エフェクト2、小テスト
	8	波形編集ソフト③	オーダシティ③ 波形編集・エフェクト2、小テスト
	9	ボイスサンプル研究①	現役声優のサンプル研究、自己PR録音編集
	10	ボイスサンプル研究②	現役声優のサンプル研究、セリフ録音編集
	11	ボイスサンプル研究③	現役声優のサンプル研究、ナレーション録音編集
	12	ボイスサンプル研究④	現役声優のサンプル研究、歌唱録音編集
	13	前期期末試験	ボイスサンプル完成、提出
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習 I		指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類			
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	音響制作①	舞台音響制作体験①	
	2	音響制作②	舞台音響制作体験②	
	3	作品制作①	ボイスラジオドラマ制作 企画	
	4	作品制作②	ボイスラジオドラマ制作 企画	
	5	作品制作③	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング	
	6	作品制作④	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング	
	7	作品制作⑤	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	8	作品制作⑥	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	9	作品制作⑦	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	10	作品制作⑧	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	11	作品制作⑨	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	12	作品制作⑩	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	13	後期末試験	ボイスドラマ完パケ	
	14	後期振り返り	舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習 I		指導担当者名	難波 恭介
実務経験	有	県内外で俳優業に従事		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本			
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション	
	2	演技とは何か?	演技の基礎知識	
	3	実践トレーニング①	演劇における声の出し方、基礎トレーニング①	
	4	実践トレーニング②	演劇における声の出し方、基礎トレーニング②	
	5	実践トレーニング③	演劇における立ち振る舞い①	
	6	実践トレーニング④	演劇における立ち振る舞い②	
	7	実践トレーニング⑤	エチュード①	
	8	実践トレーニング⑥	エチュード②	
	9	実践トレーニング⑦	感情表現「喜」	
	10	実践トレーニング⑦	感情表現「怒」	
	11	実践トレーニング⑧	感情表現「哀」	
	12	実践トレーニング⑨	感情表現「楽」	
	13	前期期末試験	感情表現 即興劇 実技テスト	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習 I	指導担当者名	難波 恭介
実務経験	有	県内外で俳優業に従事	
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	台本		
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後 期	1	期末試験振り返り	キャスト別台本読み①
	2	舞台稽古	キャスト別台本読み②
	3	舞台稽古	立ち稽古①
	4	舞台稽古	立ち稽古②
	5	舞台稽古	立ち稽古③
	6	舞台稽古	立ち稽古④
	7	舞台稽古	立ち稽古⑤
	8	舞台稽古	通し稽古①
	9	舞台稽古	通し稽古②
	10	舞台稽古	通し稽古③
	11	舞台稽古	リハーサル
	12	舞台稽古	ゲネプロ、仕込み
	13	後期期末試験	舞台本番 にて実技試験
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			



## 授業計画(シラバス)

科目名	ラジオ・MC実習 I		指導担当者名	ちば えみ
実務経験	有	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	MC原稿、筆記用具			
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション	
	2	MC基礎知識	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	3	MC基礎知識②	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	4	MC基礎知識④	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	5	MC基礎知識③	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	6	滑舌発音チェック	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	7	イベントMC実習①	食品、スポーツ用品、化粧品でのナレーションイベントMC	
	8	イベントMC実習②	自動車、ゲーム、旅行プランのイベントMC	
	9	イベントMC実習③	住宅展示場、アミューズメントパークのイベントMC	
	10	イベントMC実習④	音楽イベントのMC	
	11	イベントMC実習⑤	eスポーツイベントのMC	
	12	イベントMC実習⑥	結婚式の司会	
	13	前期期末試験	MC基礎知識についてテスト	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ラジオ・MC実習 I		指導担当者名	ちば えみ
実務経験	有	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	MC原稿、筆記用具			
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	紹介・説明ナレーション②	セミナー紹介、マナー講座、学校授業教材の司会	
	2	ラジオ番組制作①	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	3	ラジオ番組制作②	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	4	ラジオ番組制作③	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	5	ラジオ番組制作④	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	6	ラジオ番組制作⑤	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	7	ラジオ番組制作⑥	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	8	ラジオ番組制作⑦	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	9	ラジオ番組制作⑧	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	10	ラジオ番組制作⑨	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	11	ラジオ番組制作⑩	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	12	ラジオ番組制作⑪	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	13	後期期末試験	実技テスト	
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習 I	指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○      実技:
年間時間数	84 時間	週時間数	3 時間
学習到達目標	<p>・前期: YouTubeチャンネルを作成しVチューバー体験、動画制作体験を行う。          後期: 舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	MC原稿、筆記用具		
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	授業の流れの説明、教材について
	2	SWAY①	MicrosoftSWAYのブラウザアプリの使用方法を学ぶ
	3	SWAY②	MicrosoftSWAYのブラウザアプリを使用した紹介ページを作成する。
	4	アプリ、ソフトウェアについて	アプリケーション、ソフトのインストール
	5	YouTubeアカウント作成	在学中の活動用アカウント、チャンネル作成、YouTubeStudioについて学ぶ
	6	アバター制作①	NICECAMERA等のアプリを使用したアバター制作について学ぶ
	7	アバター制作②	実際にアバターを作成し、動かし方を学ぶ
	8	OBSについて①	OBSstudioのインストール、機能理解
	9	OBSについて②	OBSstudioの使用手法、設定、画面レイアウトを行う
	10	動画用素材作成①	YouTubeチャンネルのバナー、透かし、プロフィールようアイコンについて学ぶ
	11	録画用素材作成②	YouTubeチャンネル用のバナー、透かし、プロフィールアイコンを実際に作成する
	12	Vチューバー自己紹介動画の制作①	動画用背景、アバターを使用したVチューバー自己紹介動画をOBSで録画する。
	13	Vチューバー自己紹介動画の制作②	録画した動画にテロップ、BGM、SEを入れてVチューバーの自己紹介動画を完成させる
	14	前期振り返り	前期授業内容の振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習 I	指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間	週時間数	3 時間
学習到達目標	<p>・前期: YouTubeチャンネルを作成しVチューバー体験、動画制作体験を行う。          後期: 舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	MC原稿、筆記用具		
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	1	舞台基礎①	舞台の基礎知識、役者、スタッフの役割について学ぶ
	2	舞台基礎②	舞台の基礎知識、舞台の道具、舞台の構造について学ぶ
	3	衣装制作①	舞台衣装の制作実習
	4	衣装制作②	舞台衣装の制作実習
	5	大道具制作①	舞台道具の制作実習
	6	大道具制作②	舞台道具の制作実習
	7	舞台稽古①	台本の内容、セリフを覚える。
	8	舞台稽古②	台本無し、動き有りの演技
	9	舞台稽古③	本番に向けた稽古を重ねる、舞台演出について学ぶ
	10	企画、構成	企画チームを発足し、ボイスドラマ制作の企画を行う
	11	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成
	12	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成
	13	後期期末試験	プレゼン資料の提出、プレゼンテーションを行う
	14	後期振り返り	後期の授業内容の振り返りを行う
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション演習		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験	無			
開講時期	前期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	時間
学習到達目標	サーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	コミュニケーション検定初級 テキスト			
授業外学習の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明	
	2	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	1-1コミュニケーションを考える、2-1目的に即して聞く	
	3	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	2-2傾聴・質問する	
	4	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-1目的を意識する	
	5	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-2話を組み立てる	
	6	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-3言葉を選び抜く	
	7	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-4表現伝達する	
	8	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-1来客対応、1-2電話対応	
	9	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-3アポイントメント・訪問・挨拶、1-4情報共有の重要性	
	10	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-5チームコミュニケーション	
	11	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-1接客営業、2-2クレーム対応	
	12	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-3会議・取材・ヒアリング、2-4面接	
	13	検定対策	模擬試験	
	14	期末試験	検定本番	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	修了制作 I	指導担当者名	常勤職員
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180 時間	週時間数	時間
学習到達目標	音声作品制作、舞台制作を通して、1年間の集大成を発表		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	音声作品、舞台制作に必要な道具・材料の準備		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ	指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科2、3年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	28 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。</li> <li>・前期は、一般常識を強化</li> <li>・後期は、個別指導を強化</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	SUCCESS		
授業外学習の方法	教科書復習		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き
	2	一般常識2	国語 2 対義語・類義語 3 同音異義語・同訓異字
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理
	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済
	7	小テスト	中学レベル小テスト
	8	一般常識7	英語 1 英単語・英熟語 2 英文法1 3 英文法2
	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現・慣用表現
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率
	12	一般常識11	理科 1 物理・化学 2 生物・地学
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学
	14	期末テスト	一般常識総ざらい
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科2、3年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。</li> <li>・前期は、一般常識を強化</li> <li>・後期は、個別指導を強化</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	2	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	3	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート	
	4	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状	
	5	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書	
	6	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成	
	7	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	8	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	9	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
	10	個別指導1	書類添削、面接指導	
	11	個別指導2	書類添削、面接指導	
	12	個別指導3	書類添削、面接指導	
	13	個別指導4	書類添削、面接指導	
	14	個別指導5	書類添削、面接指導	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				



## 授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科2年	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</li> <li>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。	
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	8	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	13	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	14	期末試験	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科2年
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</li> <li>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。
	13	特別授業1	年度末最後の選択授業を2回で実施する。
	14	特別授業2	年度末最後の選択授業を2回で実施する。最終レポート提出。
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習Ⅱ	指導担当者名	山家ちあき
実務経験	有	ラジオMC、ボイストレーナーとして従事	
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による自身の音域の理解</li> <li>・発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ</li> <li>・声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	電子ピアノ、楽譜 等		
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	1年次の振り返り
	2	呼吸・発声①、	ウォーミングアップ、柔軟体操、ストレッチと筋肉強化について
	3	呼吸・発声②	姿勢、呼吸、発声、共鳴とフェイストレーニング
	4	のどと声帯・呼吸器官について	咽頭・喉頭、声帯の仕組み、胸式呼吸・腹式呼吸について実習を通して学ぶ
	5	歌唱の呼吸①、歌唱指導①	深い息に耐えられる体づくり、課題曲
	6	歌唱指導②	ハミング、課題曲
	7	歌唱指導③	リップロール、課題曲
	8	歌唱指導④	のどを柔軟にする
	9	歌唱指導⑤	課題曲を完成させる
	10	歌唱指導⑥	課題曲を完成させる、個別指導
	11	歌唱指導⑦	課題曲の発表会、個別指導
	12	これまでの復習	復習
	13	期末試験	課題曲発表
	14	振り返り	前期の振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習Ⅱ		指導担当者名	山家ちあき
実務経験	有	ラジオMC、ボイストレーナーとして従事		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による自身の音域の理解</li> <li>・発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ</li> <li>・声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	電子ピアノ、楽譜 等			
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	前期の復習、オリエンテーション	前期の復習、後期の授業内容を理解する。	
	2	声域①	自分の声域を知る	
	3	声域②	キーの設定、声区について学ぶ	
	4	歌唱の呼吸②、歌唱指導①	共鳴を学ぶ	
	5	歌唱指導②	ロングトーンの基礎、課題曲	
	6	歌唱指導③	クレッシェンドとデクレッシェンド、課題曲	
	7	歌唱指導④	ピアノとフォルテ、課題曲	
	8	歌唱指導⑤	裏声とファルセット、課題曲	
	9	歌唱指導⑥	音階、課題曲	
	10	歌唱指導⑦	全音、半音、課題曲	
	11	これまでの復習	復習	
	12	期末試験	課題曲発表	
	13	振り返り	期末試験振り返り	
	14	振り返り	1年間の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	アフレコ実習		指導担当者名	小椋 有紗
実務経験	有	声優・役者としてプロダクション所属の経験		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	アフレコに関する基礎的な知識を身に付け、アフレコ表現ができるようになる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本、筆記用具			
授業外学習の方法	台本読み、役作り等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れの説明	
	2	基礎知識①	アフレコに関する知識、事務所・養成所について	
	3	基礎知識②	現在のアフレコについての知識	
	4	機材実習	アフレコに必要な機材について、機材の設営について	
	5	台本実習	台本の読み方、めぐり方について	
	6	マイクワーク実習	マイクワークについて	
	7	アフレコ実習①	日常会話(ナチュラルな演技) 喜劇①	
	8	アフレコ実習②	日常会話(ナチュラルな演技) 喜劇②	
	9	アフレコ実習③	日常会話(ナチュラルな演技) 怒哀①	
	10	アフレコ実習④	日常会話(ナチュラルな演技) 怒哀②	
	11	アフレコ実習⑤	日常会話(ナチュラルな演技) 複雑な感情表現	
	12	アフレコ実習⑥	日常会話(ナチュラルな演技)	
	13	前期期末試験	日常会話のアフレコ表現の実技テスト	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	アフレコ実習		指導担当者名	小椋 有紗
実務経験	有	声優・役者としてプロダクション所属の経験		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	アフレコに関する基礎的な知識を身に付け、アフレコ表現ができるようになる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本、筆記用具			
授業外学習の方法	台本読み、役作り等			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	前期振り返り	前期振り返り、後期授業内容の確認	
	2	アフレコ実習①	ボイスコミック①	
	3	アフレコ実習②	ボイスコミック②	
	4	アフレコ実習③	ボイスコミック③	
	5	アフレコ実習④	ゲーム台本①	
	6	アフレコ実習⑤	ゲーム台本②	
	7	アフレコ実習⑥	アクション①	
	8	アフレコ実習⑦	アクション②	
	9	アフレコ実習⑧	アクション③	
	10	アフレコ実習⑨	作品一本通し①	
	11	アフレコ実習⑩	作品一本通し②	
	12	アフレコ実習⑪	作品一本通し③	
	13	前期期末試験	アフレコ現場を想定した実技テスト	
	14	前期振り返り	後期授業内容の確認	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習Ⅱ	指導担当者名	藤原悦子
実務経験	有	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事	
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス表現の基礎学ぶ</li> <li>・体力の向上を図る</li> <li>・肉体の柔軟性の向上を図る</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	なし		
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振り振り等		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明
	2	柔軟、筋トレ、バーレッスン①	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	3	柔軟、筋トレ、バーレッスン②	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	4	柔軟、筋トレ、バーレッスン③	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	5	柔軟、筋トレ、バーレッスン④	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える
	6	柔軟、筋トレ、バーレッスン⑤	ヒップホップについて知る
	7	様々なダンスジャンル①	ビバップ、ブレイク、ロック、ポップについて知る
	8	様々なダンスジャンル②	ダブルステップ、フレキシング、レゲエについて知る
	9	様々なダンスジャンル③	バレエ、ジャズ、タップダンスについて知る
	10	様々なダンスジャンル④	フラメンコ、フラダンス、社交ダンスについて知る
	11	様々なダンスジャンル⑤	タンゴ、ベリーダンスについて知る
	12	様々なダンスジャンル⑥	コンテンポラリーダンスについて知る
	13	前期期末試験	ダンスの基礎実技試験
	14	前期振り振り	前期の学習内容の振り振り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習Ⅱ		指導担当者名	藤原悦子
実務経験	有	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス表現の基礎学ぶ</li> <li>・体力の向上を図る</li> <li>・肉体の柔軟性の向上を図る</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	なし			
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振り振り等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画  後 期	1	前期振り振り	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	2	振り付け①	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	3	振り付け②	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	4	振り付け③	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	5	振り付け④	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	6	振り付け⑤	振り付けの中間確認を行う・フィードバック	
	7	中間発表	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	8	振り付け⑥	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	9	振り付け⑦	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	10	振り付け⑧	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	11	振り付け⑨	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習	
	12	振り付け⑩	ダンス実習 実技小テスト	
	13	後期期末試験	ダンス発表	
	14	後期振り振り	後期学習内容の振り振り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				



## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習Ⅱ		指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年、声優科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げ の技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類			
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク～スピーカー音が出るまで	
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存	
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音	
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIFキューベース① 録音	
	5	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1	
	6	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1	
	7	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト	
	8	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト	
	9	ボイスサンプル研究①	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	10	ボイスサンプル研究②	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	11	ボイスサンプル研究③	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	12	ボイスサンプル研究④	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	13	前期期末試験	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習Ⅱ		指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年、声優科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類			
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画  後 期	1	音響制作①	舞台音響制作体験①	
	2	音響制作②	舞台音響制作体験②	
	3	作品制作①	ボイスラジオドラマ制作 企画	
	4	作品制作②	ボイスラジオドラマ制作 企画	
	5	作品制作③	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング	
	6	作品制作④	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング	
	7	作品制作⑤	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	8	作品制作⑥	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	9	作品制作⑦	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	10	作品制作⑧	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	11	作品制作⑨	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	12	作品制作⑩	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	13	後期末試験	ボイスドラマ完パケ	
	14	後期振り返り	舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	吹き替え実習		指導担当者名	小椋 有紗
実務経験	有	声優・役者としてプロダクション所属の経験		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	アテレコの基礎知識を学び、アテレコ表現を習得する。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本、筆記用具			
授業外学習の方法	台本読み、役作り等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	授業の流れの確認	
	2	アテレコの基礎知識①	外画について、外画の見方について	
	3	アテレコの基礎知識②	アテレコ、アフレコの違いについて	
	4	アテレコの基礎知識③	外画の視聴、解説等	
	5	アテレコ実習①	日常会話(ナチュラルな演技)①	
	6	アテレコ実習②	日常会話(ナチュラルな演技)②	
	7	アテレコ実習③	日常会話(コミカル)①	
	8	アテレコ実習④	日常会話(コミカル)②	
	9	ラジオドラマについて①	ラジオドラマについて	
	10	ラジオドラマについて②	ラジオドラマ実習	
	11	アテレコ実習⑤	日常会話(ショートムービー)①	
	12	アテレコ実習⑥	日常会話(ショートムービー)②	
	13	前期期末試験	アテレコ実践テスト(日常会話)	
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	吹き替え実習		指導担当者名	小椋 有紗
実務経験	有	声優・役者としてプロダクション所属の経験		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	アテレコの基礎知識を学び、アテレコ表現を習得する。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本、筆記用具			
授業外学習の方法	台本読み、役作り等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画  後 期	1	前期振り返り	前期の振り返り、後期の流れ確認	
	2	アテレコ実習⑦	海外ドラマ(専門用語系)①	
	3	アテレコ実習⑧	海外ドラマ(専門用語系)②	
	4	アテレコ実習⑨	海外ドラマ(ホラー系)①	
	5	アテレコ実習⑩	海外ドラマ(ホラー系)②	
	6	ラジオ番組①	ラジオ番組実習	
	7	アテレコ実習⑪	映画作品一本通し①	
	8	アテレコ実習⑫	映画作品一本通し②	
	9	アテレコ実習⑬	映画作品一本通し③	
	10	ラジオ番組②	ラジオ番組実習	
	11	アテレコ実習⑭	映画作品一本通し④	
	12	アテレコ実習⑮	映画作品一本通し⑤	
	13	後期期末試験	アテレコ現場を想定した実技テスト	
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ラジオ・MC実習Ⅱ		指導担当者名	ちば えみ
実務経験	有	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	MC原稿、筆記用具			
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション	
	2	ラジオMC実習①	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ	
	3	ラジオMC実習②	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ	
	4	ラジオMC実習③	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ	
	5	ラジオMC実習④	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ	
	6	ラジオMC実習⑤	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ	
	7	イベントMC実習①	食品、スポーツ用品、化粧品のナレーションイベントMC	
	8	イベントMC実習②	自動車、ゲーム、旅行プランのイベントMC	
	9	イベントMC実習③	住宅展示場、アミューズメントパークのイベントMC	
	10	イベントMC実習④	音楽イベントのMC	
	11	イベントMC実習⑤	eスポーツイベントのMC	
	12	イベントMC実習⑥	結婚式の司会	
	13	前期期末試験	MC基礎知識についてテスト	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ラジオ・MC実習Ⅱ		指導担当者名	ちば えみ
実務経験	有	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	MC原稿、筆記用具			
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	紹介・説明ナレーション②	セミナー紹介、マナー講座、学校授業教材の司会	
	2	ラジオ番組制作①	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	3	ラジオ番組制作②	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	4	ラジオ番組制作③	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	5	ラジオ番組制作④	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	6	ラジオ番組制作⑤	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	7	ラジオ番組制作⑥	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	8	ラジオ番組制作⑦	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	9	ラジオ番組制作⑧	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	10	ラジオ番組制作⑨	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	11	ラジオ番組制作⑩	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	12	ラジオ番組制作⑪	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う	
	13	後期期末試験	実技テスト	
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習Ⅱ	指導担当者名	難波 恭介
実務経験	有	県内外で俳優業に従事	
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	台本		
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション
	2	演技とは何か?	様々な演技表現、自身の芝居を振り返る
	3	実践トレーニング①	演劇における声の出し方、応用トレーニング①
	4	実践トレーニング②	演劇における声の出し方、応用トレーニング②
	5	実践トレーニング③	演劇における立ち振る舞い①
	6	実践トレーニング④	演劇における立ち振る舞い②
	7	実践トレーニング⑤	エチュード①
	8	実践トレーニング⑥	エチュード②
	9	実践トレーニング⑦	感情表現「喜」
	10	実践トレーニング⑦	感情表現「怒」
	11	実践トレーニング⑧	感情表現「哀」
	12	実践トレーニング⑨	感情表現「楽」
	13	前期期末試験	感情表現 即興劇 実技テスト
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習Ⅱ		指導担当者名	難波 恭介
実務経験	有	県内外で俳優業に従事		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本			
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画  後 期	1	期末試験振り返り	キャスト別台本読み①	
	2	舞台稽古	キャスト別台本読み②	
	3	舞台稽古	立ち稽古①	
	4	舞台稽古	立ち稽古②	
	5	舞台稽古	立ち稽古③	
	6	舞台稽古	立ち稽古④	
	7	舞台稽古	立ち稽古⑤	
	8	舞台稽古	通し稽古①	
	9	舞台稽古	通し稽古②	
	10	舞台稽古	通し稽古③	
	11	舞台稽古	リハーサル	
	12	舞台稽古	ゲネプロ、仕込み	
	13	後期期末試験	舞台本番 にて実技試験	
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				



## 授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習Ⅱ	指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間	週時間数	3 時間
学習到達目標	<p>・前期: オーディションに向けたオーディション対策、業界研究          後期: 舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	MC原稿、筆記用具		
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	授業の流れの説明、教材について
	2	業界研究	声優事務所、プロダクション研究
	3	業界研究	声優事務所、プロダクション研究
	4	業界研究	声優事務所、プロダクション研究
	5	業界研究	声優事務所、プロダクション研究
	6	業界研究	声優事務所、プロダクション研究
	7	オーディション対策	オーディション対策
	8	オーディション対策	オーディション対策
	9	オーディション対策	オーディション対策
	10	オーディション対策	オーディション対策
	11	オーディション対策	オーディション対策
	12	オーディション対策	オーディション対策
	13	オーディション対策	オーディション対策
	14	前期振り返り	前期授業内容の振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習Ⅱ		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<p>・前期: オーディションに向けたオーディション対策、業界研究          後期: 舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	MC原稿、筆記用具			
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業計画 後期	1	舞台基礎①	舞台の基礎知識、役者、スタッフの役割について学ぶ	
	2	舞台基礎②	舞台の基礎知識、舞台の道具、舞台の構造について学ぶ	
	3	衣装制作①	舞台衣装の制作実習	
	4	衣装制作②	舞台衣装の制作実習	
	5	大道具制作①	舞台道具の制作実習	
	6	大道具制作②	舞台道具の制作実習	
	7	舞台稽古①	台本の内容、セリフを覚える。	
	8	舞台稽古②	台本無し、動き有りの演技	
	9	舞台稽古③	本番に向けた稽古を重ねる、舞台演出について学ぶ	
	10	企画、構成	企画チームを発足し、ボイスドラマ制作の企画を行う	
	11	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成	
	12	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成	
	13	後期期末試験	プレゼン資料の提出、プレゼンテーションを行う	
	14	後期振り返り	後期の授業内容の振り返りを行う	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	著作権概論		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験	無			
開講時期	前期	対象学科学年	全学科2年	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	時間
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASIC級の合格			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	ビジネス著作権検定 ベーシックテキスト			
授業外学習の方法	テキストの復習等			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション/第1章 著作権とは何か	試験概要説明/著作権の性質・著作権法の目的	
	2	第2章 著作権で保護されるもの①	著作権で保護されるもの	
	3	第3章 著作権は誰が持つ	著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者	
	4	第4章 著作権の内容①	著作権の内容 人格権と財産権、著作者人格権(公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性)	
	5	第4章 著作権の内容②	財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権	
	6	第4章 著作権の内容③	公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物	
	7	第5章 著作権はいつまで保護される	著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護	
	8	第7章 勝手に使える場合がある①	権利制限規定、私的使用関係、付随的著作物	
	9	第7章 勝手に使える場合がある②	教育関係、図書館関係、非営利無償の上演・演奏等、引用転載関係	
	10	第8章 著作物を伝達する者を保護する制度①	著作隣接権とは	
	11	第9章 勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害	
	12	第10章 著作権に関連する制度	知的財産権、情報モラルと著作権	
	13	検定対策	模擬試験	
	14	期末試験	検定本番	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作	指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全卒業年次生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180 時間	週時間数	時間
学習到達目標	音声作品制作、舞台制作を通して、1年間の集大成を発表		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	音声作品、舞台制作に必要な道具・材料の準備		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンラインサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			